

日本仏教社会福祉学会 ニュースレター

No.24

■平成27年12月23日

■発行・編集 日本仏教社会福祉学会 事務局

CONTENTS

- ・平成27年度 日本仏教社会福祉学会 第2回理事・役員会報告
- ・平成27年度 日本仏教社会福祉学会 第50回大会報告
- ・平成27年度 日本仏教社会福祉学会 総会報告
- ・第5回学会賞 要項
- ・第5回学会賞 審査結果報告
- ・『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会報告
- ・『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会案内

日本仏教社会福祉学会

発行日：平成27年12月23日

発行：日本仏教社会福祉学会
事務局

〒354-8510

埼玉県入間郡三芳町藤久保

1150-1

淑徳大学埼玉キャンパス

社会福祉実習室内

TEL：049-274-1511（代）

FAX：049-274-1521

平成27年度 日本仏教社会福祉学会 第2回理事・役員会報告

日時：平成27年10月9日（金）

10時00分～11時45分

会場 淑徳大学千葉キャンパス
15号館8階 801会議室

出席 代表理事 長谷川匡俊

個人理事

石川到覚 宮城洋一郎 藤森雄介

小笠原慶彰 池上要靖

団体理事

三友量順 小島恵昭

出席監事

梅原基雄 山口幸照

名誉会員

中垣昌美

事務局長

藤森雄介（再掲）

（事務局員 オブザーバー）

渡邊義昭 藤田則貴

欠席理事

委任状の提出あり

個人理事 清水海隆 田代俊孝

田宮仁 村井龍治 谷山洋三

団体理事 渋谷 哲 落合崇志

長上深雪

委任状なし

団体理事 徳岡博巳 林 俊光

議事報告

事務局 開会の宣言

出席理事の確認。谷山理事欠席の連絡を受けている。代表理事に議事を委任。田宮理事・渋谷理事は、学内で国際フォーラム準備対応で欠席している。徳岡・林理事は連絡をさせていただいているがつながらなかった。

1 定足数の確認

出席の確認 理事会規定第6条の基づき本理事会は成立している。



代表理事

遠路、お越しいただきありがとうございます。本日から3日間の国際フォーラム、シンポジウム、研究発表会があります。本学は創立50周年の年であり、9月に創立記念式典を開催させていただき、多くの関係者のご参加をいただき改めて御礼申し上げます。国際フォーラムでは、各国からお見えになられた方々と本日午後の国際フォー

ラム、明日のシンポジウムなど予定しています。理事の先生方におかれましても運営のご協力をお願いしたいと思います。

本日は、名誉会員の中垣先生のご出席もいただいていますので、ご助言を頂ければと思います。

事務局 議長の選出は理事会規定に基づき、代表理事をお願いしたい。

2 議案

第1号議案 会員の異動につて

議長 事務局より第一号議案についておはかりいただきたい。

(1) 入会会員の承認について

事務局 次の新入会員13名の申し出があった。について審査の結果、承認された

①入会会員の承認 個人会員（順不同）

- ・高瀬 顕功 ・宇都 榮子 ・戸塚 法子
- ・山田 勝己 ・森田 喜久男・坂井 祐円
- ・長谷川 雄高 ・児玉 龍治 ・山口 光治
- ・郷堀 ヨゼフ ・中島 航 ・齊藤 鉄也
- ・小川 博章

(2) 退会会員の承認について

事務局 資料の通り退会者の申し出があった。7名の会員から申し出があった。

②退会会員の承認 個人会員（順不同）

- ・田畑 洋一 ・森 秀映 ・野口 治子
- ・水島 見一 ・田宮 宗英 ・真野 龍海
- ・小野 文瑛

(3) 会費未納会員について

事務局 4月以降、督促をお願いしている。9名の会員が未納になっている。規定では3年未納の場合、退会勧告が可能となっているが、事務局として預からせていただいて、改めて働き掛けていきたい。

議長 それでは、入会・退会・会費未納会員の扱いについて事務局会員の減少もみられるが、事務局でもう少し働きかけをして対応していきたいがいかかが。

議長 他にあれば、なければ1号議案について承認をいただきたい。

理事 承認

入退会について審査の結果、承認された。

個人会員 195+13-7=201名

団体会員 24団体 計225会員

第2号議案 平成28年度事業計画（案）及び平成28年度予算（案）について

事務局 平成28年度の事業計画では、総会・理事会について立正大学で開催、平成28年9月3日～4日で、理事会は9月2日の開催を予定。

事務局 予算書をご覧いただきたい。予算については繰越金がない状態で立てている。201名の個人会員、団体会員については24団体の合計225会員で予算を立てている。

項目別では、理事役員の交通費の減額を事務局として提案させていただきたい。4月の理事会で提案いただいた勉強会の解散に関する補助の予算を確保するため、第1回の理事・役員会の交通費を片道分とさせていただき、その予算を勉強会に回したい。例年20万円ほどの交通費があるが、その減額分を運用したい。代表理事からは、勉強会は自主的なものである所以会員内での経費についてはそれぞれ負担することが本来ではあるが、外部講師など学習会に必要な経費の補助を考えている。

議長 事業計画に関して、ご意見があれば。小笠原理事 研究倫理規定については、研究担当理事に担当していただくことが望ましいのでは。前回の理事会で提案させていただいたものをどのように扱うか。

事務局 前回の理事会で、小笠原理事の原案が示されている。今回は、事務局の不手際で準備が間に合わなかったのもので、次回の理事会で取り上げさせていただきたい。

山口 研究担当理事の研究プロジェクトに監事が入ることは予算の執行やチェックに課題があるのでは。

中垣 研究助成計画の勉強会の開催についての子算と位置づけについて。代表理事時代に辞典を作成した。その後「仏教社会福祉入門」の作成にあたった。ここで改めて、仏教社会福祉学会の研究とは何かを問いたい。宮城先生が研究発表で50年の歩みについて発表があるが、仏教社会福祉の理論について文部省の考えでは原論であるが、私たちの仏教社会福祉は概念の明確化である。実践からの理論構築であるアプローチは演繹的なものか、調査をもとにする帰納的かという課題がある。また、例えば従来の理論・歴史・方法論（援助技術）、戦後アメリカからのソーシャルワーク論とのつながりを明らかにしていったらどうか。背景を踏まえ仏教社会福祉研究者の養成につなげていくことが大切である。研究者を発掘していく契機としてこの勉強会を考えてもらいたい。会員の減少がみられる中で会

員を増加させていく中で提案したい。更なる勉強会の充実を期待したい。

代表理事 会員の増加や学会の活性化のためにも勉強会がその役割を担うように受け止めたい。

交通費に関して、理事役員に対する交通費がなかった時代もあった。当時監事であった、重田先生が会の運営に尽力してもらうために理事会で議論の中で交通費の補助となったが、現在の会員状況を考えると、限られた予算の中で、東西でその使用方法や内容など、事務局のほうで対応していきたい。

宮城 西の勉強会では、龍谷大学の支援もいただきながら開催をしている。

代表理事 東西のバランスや、事業担当のから勉強会の計画を出していただくなど

梅原 関東では、石川先生の大学院の授業の一環として開催している。授業内で日程を調整しながら開催しているため、予算はかからない。

代表理事 そのほか質問がなければ。

理事 承認

3号議案 学会賞の審査プロセスについて

事務局 本来、村井先生が担当であるが、本務校の校務のため欠席である、資料は頂いている。手順のプロセスは資料のとおりである。

6月に、プロセスに従って審査員に書籍資料を送付した。結果9月に審査委員の結果を取りまとめ、村井先生から結果報告を頂いた。

小笠原 報告書の通りである。

代表理事 他にご意見は。

理事 承認

事務局 表彰式については、総会終了後に実施する。

4号議案 50周年記念事業

清水 50周年史編纂委員会の進捗状況について報告。歴代役員と会員数の動向が確定していない。記念誌にはCD (PDF化) したらどうか。また、年俸特集号 (冊子) としても作成を予定している。次年度の大会は本来の開催時期である9月の1週目に実施を考えている。9月2日から4日まで。三友先生が大会校の委員長としてお願いしたい。公開講演は、代表理事の長谷川先生をお願いしたい。

代表理事 学会の総力を挙げてご協力いただきたい。

宮城 過去の会員数の推移については不明確であった。日曜日の研究発表で改めて会員数についての動向を明らかにしたい。

清水 文献目録は、CD化。来賓については、PDF化したものをプリントして冊子化して来賓に配布する予定。

代表理事 資料の中に写真があるとより可視化できるのでは。

三友 次年度大会校として、品川キャンパスに仏教学部が使用している仏間などを使用し開催にあたりたい。

小笠原 年報の増刊号として発刊とあるが、本誌とは別なのか。

清水 本誌は本誌で、かぶらないように対応する。

中垣 文献目録は、辞典作成時に目録を作成しているので活用したらどうか。

代表理事 そのほか質問は。

理事 承認

5号議案 代表理事の任期について

事務局 本会会則役員を選出にその規定があるが、代表理事の任期についてその任期が連続2期6年までとなっている。会の活性化などを鑑み、次年度の理事選挙の前に春の理事会でその提案をさせていただくことについてこの理事会でご検討いただきたい。

代表理事の任期について (事務局提案)

代表理事に関する規定については、日本仏教社会福祉学会会則第十条 (役員を選出) に「理事及び監事は、別に定める選出規程に基づいて選出し、総会の承認を得る。代表理事は理事会の中から互選する。」及び、第十一条の2 (役員任期) に「代表理事の任期は三年である。但し、再任の場合は連続二期六年までとする。」と定められているが、通年での年数制限は設けていない。

この間、「代表理事は理事会の中から互選」については、選挙結果の得票数によって選ばれるという慣例で代表理事が決められてきたが、特定の人物に偏ってしまうという傾向があり、より多くの会員の方々の意見を取り上げていかなければならない学会運営の観点からも望ましい状況ではない。

そこで、代表理事の任期について、「再任の場合は連続二期六年までとする」に加えて、通年での年数制限 (例えば、通年で三期九年) を追加した規則の改定を提案したい。

代表理事 代表理事の任期について、改定の提案を事務局からあったがご意見を。特になければ、次回の理事会で提案させていただくことを承認いただきたい。

理事 承認

代表理事 理事に選ばれた方の受け止めや就任許諾、団体理事の選考など、理事としての役割をにっってもらふことを自覚してもらふことが必要ではないかと考えている。

事務局 事務局としても電話などで連絡を取って対応しているが、不十分な点もあったと受け止めている。

代表理事 次の理事会までに事務局で案を出してもらいたい。他にご意見は、なければ事務局にお願いしたい。

理事 承認

6号議案 第52回大会に向けて

事務局 慣例では西部地区での開催である。今後、該当の理事の方々と具体的な相談をさせていただき予定である。

報告事項

① 第50回学術大会の進捗状況について 淑徳大学 藤森理事より

(渋谷理事欠席のため)

冊子で資料の通りであるが、国際フォーラム、シンポジウム、研究発表などスケジュールをもとに実施していく。

② 各担当理事報告

・年報 小笠原担当理事

年報46号を配布した。大会までに発刊することができた。大会最終後に年報委員会を開催する。投稿の確保が今後の課題。今回の投稿規定は新しいものになっている。

・仏教ソーシャルワークプロジェクト

石川担当理事

研究発表会で、中間報告させていただく。淑徳大学が戦略基盤の研究とも領域が重なるところもある。

・仏教社会福祉学研究史

藤森理事 (谷山理事欠席のため)

50周年を迎えるにあたり、目次素案が出されている。

宮城理事より 目次構成がこれまでの書籍とかぶっている。大会テーマなどを見ても学説史的な考え方を踏まえて進めていく必要があるのでは。

代表理事 そういった意見を踏まえ今後進めていきたい。

・東日本大震災対応プロジェクト

藤森理事

アンケート調査の報告書については、全日仏のホームページ上でPDF版を既にアップしている。今後は、紙媒体の報告書を作成・配布するとともに、より多くの研究参加者を募

りたい。また、11月27日に全日本仏教会主催の宗派担当者との情報交換会を予定している。

なお、淑徳大学が本年度採択された文部科学省の「戦略的研究基盤形成支援事業」の研究プロジェクトのテーマは、「アジアのソーシャルワークにおける仏教の可能性に関する総合的研究」であり、具体的な研究テーマの中に、この「東日本大震災対応プロジェクト」や「仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト」で検討された成果や課題等も含まれているので、今後、本学会会員の更なる協力を得ながら研究を進めていきたい。

代表理事より 今後新たな研究に関心を持つ会員が増えることを期待したい。

・勉強会について 事務局

長上理事より、関西の勉強会の案内をいただいている。10月6日付で会員に案内ハガキを出した。

③ 事務局より報告

- ・ホームページの更新状況について
- ・新規入会希望者について
- ・平成28年度 理事・役員会の選挙について
- ・平成27年度 総会について

④ その他

なにかあれば。

代表理事 第2回理事役員会を終了したい。
(文責：事務局)



日本仏教社会福祉学会 平成28年度事業計画

1. 総会・理事会開催

平成28年度総会

平成28年9月3日 (土)

於：立正大学 品川キャンパス

平成28年度理事会

第1回 平成28年4月23日 (土)

於：淑徳大学池袋サテライトキャンパス

第2回 平成28年9月2日 (金)

於：立正大学 品川キャンパス

2. 年報刊行事業

平成28年度 第47号刊行

(編集委員長：小笠原理事)

※次号の第47号は、50周年記念号となります。会員各位の、これまで以上に積極的な投稿をお願い致します。

3. 研究助成事業

1) 『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会の開催

2) 学会賞(学術賞・奨励賞)授与事業
第6回学会賞(対象期間：平成27年1月1日～平成29年12月31日)

※特に学会賞に関しましては、会員の方々からの積極的な推薦をお願い致します。

4. 第51回学術大会開催事業

平成28年9月3日(土)～9月4日(日)

於：立正大学 品川キャンパス

5. 広報事業

1) ニュースレターの発行(年2回)

2) ホームページ維持・管理：株式会社国際文献社

(HPアドレス<http://www.bunken.co.jp/>)

※日本社会福祉系学会連合のHP移転に伴い、本学会HPも移転致しました。

6. 研究事業

1) 仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト(プロジェクト委員長：石川理事)

2) 仏教社会福祉学研究史(仮)プロジェクト(プロジェクト委員長：谷山理事)

3) 東日本震災対応プロジェクト(プロジェクト委員長：藤森理事)

※会員の方々の研究テーマ等と照らし合わせて、今後、それぞれのプロジェクトより参加のお誘いをさせていただき予定です。積極的な参加をお願い致します。

7. 理事選出選挙(平成28年6月実施予定)

8. 特別事業

1) 日本仏教社会福祉学会50周年記念事業委員会(委員長：清水理事)

9. 学会事業担当

1) 担当理事及び委員会

① 年報編集担当理事：◎小笠原理事

・編集委員会：小笠原理事(編集長兼務)、大久保秀子会員、栗田修司会員、長崎陽子会員、藤森雄介会員

・査読委員：現在26名

② 研究担当理事：◎石川理事

長上理事、谷山理事、【山口監事】

・仏教ソーシャルワーク研究プロジェクト：石川理事

・東日本大震災対応プロジェクト：藤森理事

・『仏教社会福祉入門』勉強会：長上理事(関西担当)

【梅原監事】(関東担当)

・『仏教社会福祉学研究史(仮)』編集刊行委員会：谷山理事

※山口監事・梅原監事については、オブザーヴァーとして関わっていただく。

③ 庶務担当理事：

◎藤森理事(事務局長兼務)

・事務局：渡邊義昭会員、藤田則貴会員

④ 日本仏教社会福祉学会

50周年記念事業委員会：

・清水理事(全体統括)

宮城理事(50周年記念誌担当)

村井理事(関西担当)

池上理事(文献目録担当)

三友理事(記念式典担当)

落合理事(関東担当)

梅原監事(関東担当)

林理事(関西担当)

徳岡理事(関西担当)

◎事業・委員会名：50周年史編纂委員会

報告者名：清水 海隆

平成27年度 前期事業・活動進捗状況報告

I. 『日本仏教社会福祉学会50周年記念誌』の進行状況

(1) 記念誌の構成(仮)

A. 本編

① 代表理事挨拶

日本仏教社会福祉学会の課題と展望
〔執筆：長谷川代表理事〕

② 学会の歩み

〔執筆：宮城先生〕

草創期：学会設立からその時期を固める時期。会員数約100名前後の段階。

発展期：会員数が200-300名となり、大会開催・年報刊行等が定式化していく時期。

展開期：会員数の減少傾向が見られるが、多様な学会活動が展開していく時期。

③ 学会の回顧と展望(担当：村井)

〔執筆：中垣先生・長谷川先生・石川先生〕
主要な視点「iいつ、どのように学会と関わったか、ii会長職としての運営方針、iii学会の今後をどう考えるか、ivその他」を含めて文章を頂戴する。

・再録原稿

守屋 茂「仏教社会福祉の回顧と展望—人格的人間の失地回復をめざして—」

西光義徹「日本仏教社会福祉学会の回顧と展望—薄明のなかにたたずみ想う—」シンポジウム

「日本における仏教福祉の原点を探る」(第28回・仏大)

シンポジウム「仏教福祉再考」(第31回・龍大)

年報特集号「仏教社会事業の基本問題」(採否要検討・未定)

④学会関係者のメッセージ

・大会を引き受け校からのメッセージ [執筆：各校団体理事]

◀関東▶ 淑徳大学 (藤森) 大正大学 (落合) 立正大学 (清水)

◀中部▶ 同朋大学 (小島)

◀関西▶ 龍谷大学 (村井) 佛教大学 (林) 大谷大学 (佐賀枝) 高野山大学 (山口)

・主な事業関係者

「十周年記念・仏教社会事業年表・仏教社会事業文献目録」 [執筆：田宮先生] 「アジアプロジェクト」 [執筆：三友先生]

「仏教社会福祉辞典」 [執筆：中垣先生]

「仏教社会福祉入門」 [執筆：清水教恵先生]

「東日本大震災」 [執筆：藤森先生]

「事務局」 [執筆：藤森先生]

「出版協力」 [執筆：法藏館戸城氏]

・学会賞・奨励賞受賞者から 高石史人、ランジャンナ・ムコパディヤヤ、長谷川匡俊、長上深雪、大久保秀子 各氏

B. 資料編

①学術大会の開催状況 (開催テーマ、記念講演、シンポジウム、分科会プログラム、会場)

②年報総目次

③歴代役員・事務局校

④予算・決算、会員数動向

C. 文献目録 (CD版)

[執筆：池上先生]

(1) 仏教社会福祉関係文献目録 (凡例)

(2) CD版添付

◎事業・委員会名:50周年史編纂委員会

報告者名:宮城 洋一郎

平成27 (2015) 年度本学会学術大会での研究発表に向けて準備を重ねてきた。

9月10日に大会事務局に本発表 (「日本仏教社会福祉学会の五十年—その運営と研究課題—」) の要旨を送付。10月11日 (日)、第1分科会で発表。

本発表の骨子

1) 先行研究の検討: 本学会年報第19号・守屋茂氏が本学会の回顧と展望を執筆。同年報30号に西光義徹氏が本学会の歩みを三段階に区分し、問題点を指摘。これらの検討から、50年の時期区分を設定

2) 各時期区分の根拠を明示: 個人、団体会員数の推移および予算の動向とも照合させて草創期、発展期、展望期の区分を示す。その上で、それぞれの時期ごとの問題点について、社会的背景などを踏まえて検討していく。

3) 各時期区分と研究課題: それぞれの時期を代表する本学会の研究成果・大会シンポジウム等を取り上げ、どのように討議されてきたかを検討し、研究課題をさぐっていく。草創期は仏教社会福祉の本質を問う研究が顕著であった。発展期は、仏教社会福祉と社会福祉各分野との関連を問う大会テーマが顕在化していた。展望期は、さらに幅広く課題を探っていくために、国際連携、人権・差別問題、東日本大震災などを取り上げた。

4) まとめ: 本学会の50年の歩みは仏教と社会福祉とをどのように結びつけ、仏教的視座からの体系的な論を構築していくかにあったと了解できる。それが社会福祉分野への傾注となって現れた反面、仏教学研究にどう影響を及ぼすかが十分であったとはいえなかった。このような問題を今後どう議論されるべきかが課題となるだろう。

平成27年度 日本仏教社会福祉学会 第50回大会

日本仏教社会福祉学会 第50回大会 淑徳大学創立50周年記念 国際学術フォーラム

共通テーマ

アジアのソーシャルワークにおける 仏教の役割

第50回大会 実行委員会

委員長 淑徳大学 田宮 仁

大会日時 2015 (平成27) 年10月9日 (金) 淑徳大学創立50周年記念国際学術フォーラム 10日 (土) ~11日 (日)

日本仏教社会福祉学会 第50回大会
大会会場 淑徳大学 千葉キャンパス

大会内容スケジュール

10月9日(金) 淑徳大学創立50周年記念
国際学術フォーラム

13:00~13:10 開会式
13:10~17:00 国際学術フォーラム

共通テーマ

「アジアのソーシャルワークにおける仏教の役割」

国際フォーラムテーマ

「仏教”ソーシャルワーク”と西洋専門職ソーシャルワーク ー次の第一歩ー

- ・スリランカからのメッセージ「歴史的任務」
- ・学術国際フォーラムの趣旨説明
秋元 樹 (淑徳大学)
- ・論題1 西洋専門職ソーシャルワークから考える仏教ソーシャルワーク
Sopa Onopas氏 (タイ)
- ・論題2 仏教ソーシャルワークから考える西洋専門職ソーシャルワーク
H. M. D. R. Herath氏 (スリランカ)
- ・論題3 ベトナムでの経験から考える西洋専門職ソーシャルワーク
Nguyen Hoi Loan氏 (ベトナム)

[全体討論]

コーディネーター 秋元樹 田宮仁(淑徳大学)

- ・コメンテーター発言 戸塚法子(淑徳大学)
- ・ブレインストーミング自由討議
ー”仏教ソーシャルワーク”の概念と枠組みの構築に向けてー
- ・まとめと提言 次の一歩
Karma Sangbo Sherpa氏 (ネパール)
- ・フィードバックと小討議
- ・閉会の挨拶 長谷川匡俊 (大乘淑徳学園)

10月10日(土)

日本仏教社会福祉学会 第50回大会

9:30~ 受付
9:30~10:00 物故者追弔法要
10:30~10:40 開会式
10:40~11:45 基調講演

演題: 「アジアののソーシャルワークにおける仏教の役割 ーグローバルな共通基盤の構築に向けてー」

石川到覚氏 (大正大学名誉教授・学会前代表理事)

13:00~16:45 大会シンポジウム

「アジアのソーシャルワークにおける仏教の役割ー共通基盤の構築に向けてー」

13:00~13:15 学術国際フォーラム報告
新保祐光 (大正大学)

13:15~14:00 発題1: Nguyen Kim Hoa 氏
(ベトナム)

14:00~14:25 発題2: Venerable
Kadawathgama Piyarathana 氏 (スリランカ)

14:25~14:40 休憩

14:40~15:10 提言:

「アジアにおける“仏教ソーシャルワーク”活動の現状と論点ー前2日間の議論からー」

Anuradha Wickramasinghe 氏 (スリランカ)

[全体討論] コーディネーター: 田宮 仁
(淑徳大学)

15:10~15:25 コメンテーター発言
新保祐光 (大正大学)

15:25~16:00 質疑応答・全体討議

16:00~16:15 休憩

16:15~16:45 全体討議

17:00~18:00 学会 総会

18:10~20:00 懇親会



平成27年度 日本仏教社会福祉学会 総会報告

第51回学術大会が行われ、初日の17時~18時まで、平成27年度総会が行われた。

宮城洋一郎理事が議長に選出され、平成26年度決算及び事業報告、平成28年度予算及び事業計画について議事が進められた。その中で、特に事務局提案として、事業計画実施の為の理事・役員会交通費手当の削減を考慮しており、平成27年度 第1回理事・役員会での議論を受けて、事業計画のうち、「3. 研究助成事業 1) 『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会の開催」をより積極的に行っていくため、必要な予算措置として、当面の間、これまで第1回理事・役員会の際に支給していた交通費を半減(片道分)とすることが提案され、承認された。

また、長谷川代表理事より、先に行われた第50回大会の基調講演やシンポジウムの内容を受けて、「仏教ソーシャルワーク」の概念定義を明確化するための研究プロジェクトを次年度からの本学会の事業として行っていく事について、当初は予定になかった議案として提案があり、承認された。

報告事項としては、会員の異動や担当理事・委員会報告、「仏教社会福祉学研究史(仮)」の編集委員会の準備、『仏教社会福祉入門』を活用した勉強会の開催、などが審議され、全案が可決された。

第5回学会賞 要項

学会賞創設の意義と目的

創立40周年を契機に、仏教社会福祉研究の一層の発展を図るため、学会員のうちで顕著な研究業績をあげた者の顕彰、および若手研究者の研究奨励を目的とする日本仏教社会福祉学会、学会賞を創設する。

1. 学会賞の種類

創設の目的にてらし、学会賞は次の2種とする。

I. 学術賞

学会員のうちで顕著な研究業績をあげた者の顕彰

II. 奨励賞

学会員のうちで今後の研究の発展が期待される者の奨励

2. 審査の対象

・平成24年1月1日から平成26年12月31日までに発表された研究業績を対象とする。

・学術賞については原則として刊行された著作物(単著・共著・編著等)を対象とする。

・奨励賞については著作物のみでなく、論文(共同執筆を含む)および共同研究成果物(報告書等)も対象とするが、共同執筆の場合は主著者であることを条件とする。

・対象となる論文は、共著の一部、学会誌、各大学の紀要、海外の専門誌などに掲載されたものとし、外国語のものを含むものとする。

3. 審査の手続き

学会賞の審査のため、研究担当理事を含む数名で構成する審査委員会を置く。審査委員の任期は3年を1期とし、2期を越えないものとする。審査を円滑に行うため、自薦、他薦を含め、広く学会員からの推薦を募る。

4. 授賞式

授賞式は平成27年度の学会総会において行う。

5. 経費

各賞に贈る賞金額を含む必要経費については、学会財政の状況を勘案し、寄付を募るなど引き続き検討する。

その他 当分の期間、学会賞の募集および審査・受賞は、3年毎の実施とする。

日本仏教社会福祉学会

学会賞審査結果報告書

審査委員	研究担当理事	村井龍治
	身延山大学	池上要靖
	龍谷大学	長上深雪
	神戸女子大学	小笠原慶彰

1. 審査結果

今般、日本仏教社会福祉学会会員からの推薦のあった宮城洋一郎著『宗教と福祉の歴史研究—古代・中世と近現代』、藤森雄介著『仏教福祉実践の轍』、浄土宗総合研究所仏教福祉研究会編『浄土宗の教えと福祉実践』の3点について、学術賞、奨励賞について審査しました。その結果、以下のように推薦いたします。

学術賞

・宮城洋一郎著『宗教と福祉の歴史研究—古代・中世と近現代』

2013年3月 株式会社法蔵館

目次

第1部 古代・中世における仏教と福祉の課題

(『日本霊異記』の福祉課題/ 叡尊の実践と福祉課題/ 忍性の立脚点と実践課題) /

第2部 第2部 戦後仏教教団の福祉課題への取り組み(戦後仏教教団と部落問題/ 戦後天台宗系教団の社会福祉事業/ 真言宗僧・松村祐澄師と恵愛福祉事業団) /

第3部 第3部 近現代の福祉課題をめぐって(恤救規則成立をめぐる問題点/ 明治中期の防貧論と後藤新平/ 「社会政策学会弁明書」をめぐる論議について ほか)



奨励賞

・浄土宗総合研究所仏教福祉研究会編『浄土宗の教えと福祉実践』2012年5月ノンブル社

・藤森雄介著『仏教福祉実践の轍』2014年3月 淑徳大学 長谷川仏教文化研究所

2. 推薦理由

今回推薦された3冊についてはいずれも仏教社会福祉の優れた研究である。その中でも、宮城洋一郎著『宗教と福祉の歴史研究—古代・中世と近現代』については、「社会福祉と福祉の概念が異なるという前提に立ちつつ仏教と福祉を捉えようとした意欲作」「これまでの福祉研究史の観点からは一線を画したものであり、むしろ福祉文化の側面が強い研究書」「仏教や仏教者が、差別や貧困などの社会問題にどう向き合い、どのような営みをしてきたが、えぐり出される」など、すべての審査委員から高い評価を得た。全審査委員一致で学術賞に推薦する。

次に、浄土宗総合研究所仏教福祉研究会編『浄土宗の教えと福祉実践』については、「仏教と福祉がどのような時代背景の中で関連付けられたか、また時代の福祉思想と仏教観がどのように結びつくのかについて考察した良書となっている」「福祉活動に取り組んだ実践家を浮かび上がらせる営みは成功していると言える」など高い評価を得た。その一方で研究書としての進展からはやや教科書的な記述を含む点や「研究方法の新たな展開が提示されていないところが残念である」の指摘もあるが、すべての委員から「今後の仏教社会福祉研究に期待できる」として奨励賞に推薦する。

次に、藤森雄介著『仏教福祉実践の轍』については、「現代の課題が未来には轍になっているとする立場から史的研究に取り組もうとする成果には大いに期待できる」「東日本被災者支援における『仏教』の果たす役割にもついて触れられ、さらなる研究に期待が出来る」など高い評価を得た。その一方で、アンケート分析や構成の点では課題もあるとの指摘もあるが、すべての委員から「今後の仏教社会福祉研究に期待できる」として奨励賞に推薦する。

以上の結果から、学術賞として、宮城洋一郎著『宗教と福祉の歴史研究—古代・中世と近現代』を、奨励賞として、藤森雄介著『仏教福祉実践の轍』、浄土宗総合研究所仏教福祉研究会編『浄土宗の教えと福祉実践』の2点を推薦いたします。

『仏教社会福祉入門』を活用した 勉強会報告

〔関東地区〕

日 時 2015年11月17日（火）
16時30分～18時30分

場 所 大正大学7号館7階774号教室
参加者 清水 石川 梅原 新保 坂本
高瀬 吉水 大正大学院生（1名）
金田

講 師 清水海隆先生（立正大学教授）

講 題 「貧困問題と仏教」（テキスト第4章2）

内 容 清水先生がテキスト（p.119～p.128）を活用した授業について話され、入門書であっても学生には難しく、解説を要するためオリジナルな注釈資料を紹介された。学生は労働による生活実感がないことから、貧困の概念、経済の変化、福祉の政策史等を題材に仏教の慈悲や縁起等の理解を促す内容も織り交ぜながら講義されていた。その後、石川先生の進行で討論し、衆生恩と衆生縁の捉え方、人が人を支えあう根拠等を意見交換で深め、最後に梅原先生がまとめられて終始和やかな研究会となった。第3回目は2月頃を予定。

（文責 金田）

〔関西地区〕

日 時 2015年10月26日（月）14時～16時半

場 所 龍谷大学響都ホール会議室

講 師 長崎 陽子 先生

テーマ

「ソーシャルワークのグローバル定義と
仏教思想」

共 催 日本仏教社会福祉学会

龍谷大学アジア仏教文化研究センター

学会以外の方の参加者もあり、盛況だった。仏教と社会福祉を理論的にも実践的にもどう結びつけるかという点で、非常に示唆に富む研究会となった。

（文責 長上）

『仏教社会福祉入門』を活用した 勉強会案内

〔関東地区〕

日 時 平成28年2月15日（月）

15時から17時まで

場 所 大正大学巣鴨校舎7号館7階774号教室

テーマ 「ソーシャルワークのグローバル定義
と仏教思想」

講 師 長崎 陽子 先生（龍谷大学）

日本仏教社会福祉学会事務局

事務局長 藤森 雄介

事務局員 渡邊 義昭

藤田 則貴

〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1

淑徳大学埼玉キャンパス 社会福祉実習室内

TEL : 049-274-1511（代）

FAX : 049-274-1521